

優秀賞

美しい地球を守ろう

トゴトフ オドントヤ
TOGTOKH ODONTUYA

約二年前、私のささやかな夢が叶えられ、この美しい島国の日本にやって来ました。日本に来る前は、テレビのニュースなどで知った日本発展ぶりや経済成長におどろきをかくせませんでした。セントレア空港に着き、組合へ移動するバスの中から見た桜の花が咲き乱れる美しい道のり、緑あふれる風景が、一番印象的でした。山々をはさんで現れる小さな集落、似たような町並みが、私の中で、「この国の人々は、昔からどのように日本の発展の為に努力してきたのだろう」と思うと好奇心がたかぶりました。

日本の来る前、周りの人々からよく、「気温の違いで日本の環境に慣れるまで、大変だろう」と言われていました。でも、私は何の違和感もなく、しぜんに日本の環境になれていきました。この二年間の日本での生活をふりかえってみると、春秋の心地のよい季節、対照的に夏冬の暑さ、寒さが厳しい季節はモンゴル人である私にも感じる事ができます。

街中が凍りつくぐらい寒い所から、来た私にとって日本の夏は、とても暑くて、まるで太陽が地面に落ちてきたように感じ、暑くて大変です。周の日本の友人に「日本の夏は、風も暑くて、昔からこんなに暑いんですか?」、「私の国では、夕方になると涼しい風が吹き、最高に気持ちがいいです。」とたずねると「昔の日本もこ

んなに暑くはなかった」と答えました。

暑い夏の日には窓を開けて、自然の風が入ってくる事を期待しますが、入ってくるのは隣の家のクーラーの熱風でしかありません。仕方がないので私もクーラーを使う事が、ほとんどです。日本では、夏はクーラーで涼しくすごすのは、あたり前のようなのですが、このあたり前という気持ちで、私達、人間は、自分たちの手で、この美しい地球を壊し続けているのではないのでしょうか。

現在の若者と年配の方が、過ごした環境、自然が、大きく変化している事、全世界が地球温暖化について考えはじめている今、私達、一人一人が、この地球の為に出来る事を真剣に考えるべきであると思います。私一人では、何もできませんが、一人一人が、少しでも、この気持ちがあれば、地球環境は変わっていくと思います。

現実離れした私の夢ですが、出来る事なら、世界中が、年に一日だけでも、すべてのクーラーの使用を禁止し、自然の風にふれ、汗を流し、不便な一日を過ごしてみませんか。

私達人間は、発展し成功し続ける一方、失い続けてきた大切な自然環境をどうしたら取り戻せるのか、世界の人々が、いっしょになり考えていけたら嬉しく思います。